

# ヨソ者の可能性は∞！

平成29年1月25日

株式会社花山サンゼット

代表取締役 阿部 幹司

# 1. 自己紹介

## 経歴および花山に移住した理由

### 経歴

昭和47年 仙台市生まれ  
県内の高校を卒業後、上京。  
短大卒業後、サラリーマン、アルバイト生活を経て28歳の時に保育士になることを決意。  
平成13年 仙台市内の専門学校入学  
平成16年 卒業と共に再上京、株式会社が運営する保育園に勤務  
平成19年 青森県出身の妻と東京で出会い、結婚。長女の妊娠を機に仙台へ戻る。  
平成19年 仙台市内で認可外保育施設を開設。  
平成22年 経営を手放す。  
平成23年 「東日本大震災」妻と子どもたちは一時山形県内に避難。  
同年7月 「地域おこし協力隊」として栗原市花山に移住。  
平成24年 妻と子どもたちも花山に移住  
平成25年 太陽光発電事業に着手  
平成27年 花山第一太陽光発電所稼動

### 花山に移住した理由

震災前から里山に移住したいと願い、妻と話し合っていました。しかしどこに相談すれば良いのか分からず、いたずらに歳月だけが流れていったのです。

平成23年3月11日の「東日本大震災」は私たち家族の価値観を根底から覆す出来事でした。

食料や飲料水、そしてエネルギーなどすべてを絶たれたにも関わらず、子どもたちに何もしてやれない親としての無力感。

(せめて子どもたちには『生きる力』を育んでほしい)

と願い、たまたま求人誌で見かけた「地域おこし協力隊」募集欄を見つけ、迷わずに応募したのです。

実際に移住してみると、花山はまさに思い描いた通りの理想郷でした。子どもたちは大自然の中でのびのびと、地域の方々に見守れながら健やかに成長を遂げています。

### 住んで感じた“3つの安全”

- (1)「食」の安全→自給自足ができる、湧水が汲める・・・etc
- (2)「住」の安全→安い家賃、十分な広さの間取り、隣家と適度な距離があるので騒音が気にならない
- (3)「交」の安全→地域全体が顔見知り治安が良い、交通が便利

## 2. 会社事業紹介

## 経歴および花山に移住した理由

### (1) 再生エネルギー事業部 (平成27年3月～)



花山第一太陽光発電所 (出力: 635kw)



花山第二太陽光発電所 (出力: 950kw)

※県内2か所、県外1か所の太陽光発電所の保守・管理業務を請負予定。

生じた利益を地域の農林業再生のために投資

### (2) 農林事業部 (平成27年8月～)

学生インターンの導入 (～平成28年2月末)  
花山地区における農林業の担い手不足に着目し、今年8月下旬から学生インターンを導入し、農林業を中心とした資源調査(耕作放棄地・空き家含む)に従事してもらい、「データベース化」に取り組んでいます。



学生インターンの戦力化 (平成28年4月～平成28年9月末)  
栗原市特産品販売施設「湖畔のみせ 旬彩」の指定管理を受け営業を開始。立ち上げ時や運営に際し、助言をいただくことで大勢のお客様にきていただく仕組みづくりを作りました。



学生インターンの事業担当 (平成28年10月～平成29年3月末)  
1期生・2期生が手がけた6次化商品「揚げこん」の販売担当として、各種イベントへの出店・販売促進計画の立案など、幅広い活動をしております。

### (3) 仙台営業所 (平成28年4月～)

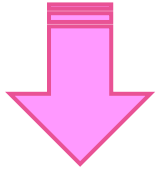


### 3. ヨソ者の気づき



堀ガコ人<sup>®</sup>

Kurihara-City hanayama



# 4. 今後の事業展開

## (1) 観光事業部 (平成29年4月)

### 観光

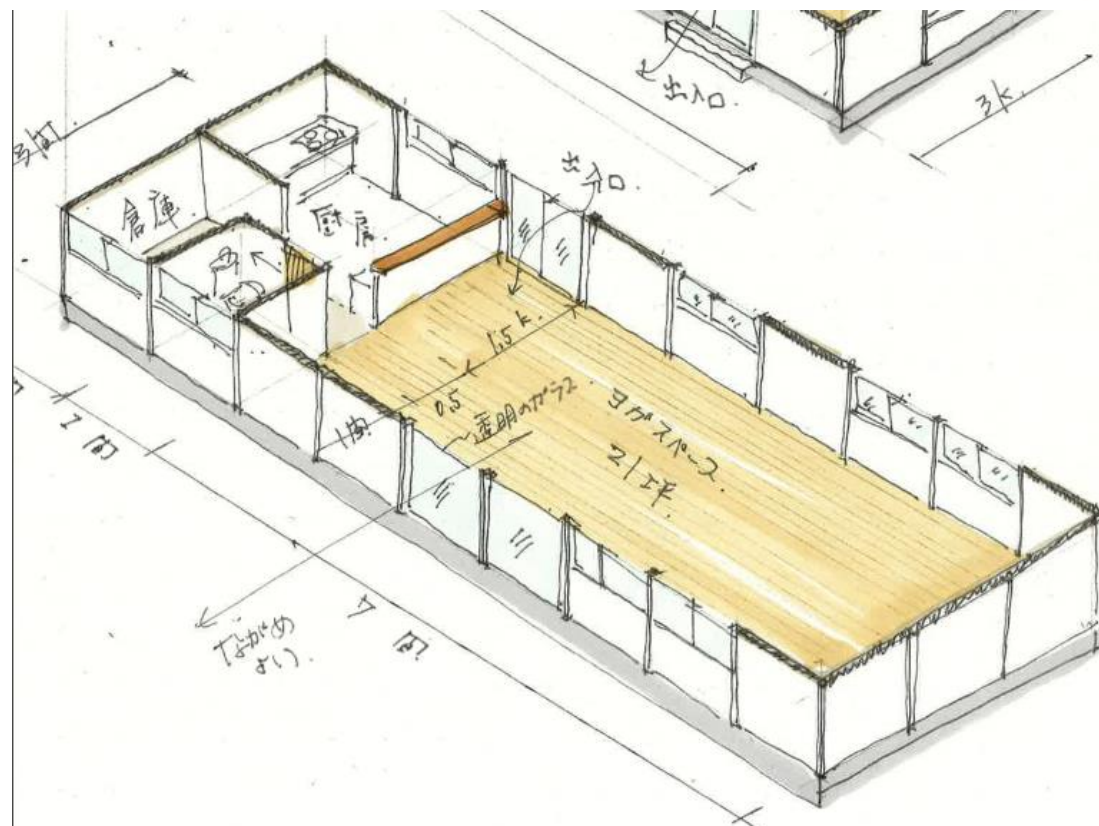
「インバウンド」  
「地域資源の発掘」  
「空き家」・「空き店舗」の活用

### 移住

「地域おこし協力隊」  
移住者ならではの視点で新たな移住者を受け入れ  
首都圏と宮城の結び付き

## (2) ヨガ事業部 (平成29年4月)

結婚前は都内でヨガインストラクターをしておりましたが結婚を機に仙台へ、そこでもヨガ教室を主宰し、花山へ移住後も栗原を拠点に行っております。



ご清聴、ありがとうございました。